

ため、老朽化した消防団配備の水槽付ポンプ自動車を更新し、消防体制の更なる充実強化を行うことにより、地域住民の生命・財産を守り、被害の軽減を図ります。

●防災・減災対策では、いつ発生するか分からない災害に対して、できる限り対策を講じる必要があることから、特に一昨年8月の集中豪雨により被災した鬼鹿市街への対策については、本年度新たな排水施設を整備し、住民の安全・安心な生活環境を確保します。

また、町内の基幹道路であります国道232号の強靱化対策については、これまでも機会あるごとに関係機関にお願いしていますが、スクールバス運行による子供たちの通学や住民の安全確保の観点から、越波や法面崩壊等の交通障害を早期に解消するため、事業化予算の確保に向けた積極的な要望活動を国に対して継続的に実施します。

●情報系整備では、町内で唯一居住地での携帯電話不感エリアである桑園中の沢地区の解消に向け、国の制度を活用し、事業者と連携しながら事業を実施します。

主な施策内容	予算額
橋梁長寿命化修繕工事	323,000千円
除排雪委託業務委託	79,316千円
留萌南部衛生組合ごみ処理場運営負担金	59,215千円
橋梁長寿命化調査委託	46,000千円
鬼鹿港町1区排水路工事	30,000千円
携帯電話エリア化整備事業	16,000千円
デマンドバス運行事業	15,924千円
空き家等解体撤去事業補助金	5,000千円
住環境整備費助成事業	4,500千円
住宅新築及び増改築費助成事業	3,000千円



福祉施策

●少子化対策では、国の「子ども・子育て支援制度」の制定を受け、昨年度より町の「子ども・子育て支援事業計画」がスタートし、保育の必要性を認定した上で教育・保育の給付を支給しており、保育料・医療費の無料化や保育時間の延長等、子育て世帯の経済的支援を行いました。

本年度は、総合戦略に掲げる子育て・しごと両立支援や地域交流・子育て支援拠点の整備について、具体的な施策を検討する重要な年でもあり、町の将来を担う子供達を安心して産み育てることが出来る環境づくりを目指し

ます。

●高齢者対策では、高齢になっても健康で生涯現役で活躍できるように、地域での活動の場や機会の充実等、生きがい対策を促進するとともに、高齢者の健康増進・社会参加等の活動内容に応じたポイントを付与する事業等を実施し、健康づくりの充実を図り健康寿命の延長を図ります。

また、町内各老人クラブの活性化に向け、健康な体と意欲の高揚が図られるよう一層配慮します。

●障がい者施策では、福祉のまち宣言の趣旨にのっとり、障害を持つ方やお子さんが安心して暮らしていける町づくりを一層進め、今後も確実なサービスの提供ができるよう努めます。

特に、本年度は、おにしか更生園体育館の屋根改修事業や一昨年に引き続き、「あたり」が運営している「共同生活支援施設グループホーム」の建設整備事業に対し相応の支援をします。

また、本年度は、第54回北海道障害者スポーツ大会の共同開催地となっているので、運営委員会を設置し大会の成功に努めます。

主な施策内容	予算額
社会福祉施設整備事業補助金	13,900千円
緊急通報サービス委託	3,364千円
高齢者交通費助成事業委託	3,260千円
障害者相談支援事業委託	1,300千円



医療・介護施策

●町民一人ひとりが、健康面での自己管理意識の向上のため、各町内会等への健康出前講座の実施や健康管理システムを活用した生活改善、健診受診の勧奨を行い、町民の健康維持に向けた一層の取り組みを進めます。

●介護施策では、改正介護保険法の施行により、施設から在宅中心の介護政策が実施となり、町においては現在、平成29年度の完全移行に向けた体制づくりを進めており、法の趣旨を尊重した対応に向け、町民が不利益を蒙ることのないよう努めます。

また、本年度は、在宅老人デイサービスセンターの維持補修を予定しており、老朽化している施設の長寿命化を図り、最適な環境下で利用者が在宅生活を継続していけるよう努めます。

●後期高齢者医療制度では本年度は、2年ごとの保険料の見直しで定められた改定年ですが、被保険者数の増加等に伴う医療費総額は増額となるもの、一人当たり給付費は減少傾向にあることから、平成28・29年度の保険料率は下がる見込みであり、併せて低所得者等の軽減措置も拡充される予定です。この制度は、高齢者の皆様が安心して日常生活を過ごすためのもので、今後一層各関係機関との連携を図りながら